

造林作業の省力化への取組と地域への情報発信

網走西部森林管理署西紋別支署

はじめに

当支署は北海道北東部のオホーツク海側に位置し、紋別市と滝上町に所在する約8万4千haの国有林を管理しています。

沿岸地域の冬期は海面が流水に覆われ、内陸部では最低気温がマイナス20度を超えることも珍しくない環境となります。

気象条件は厳しいですが造林地では風雪に耐えた苗木が成長し、多くの人工林が主伐期を迎えています。

地域の課題

利用期を迎えた森林をしっかりと使っていくためには、伐採・再造林が必要な森林資源を利用して林業・木材産業が発達してきたこの地域も、林業従事者の高齢化による労働力不足、苗木確保の困難化等、人件費や資材費の上昇もあり、伐採地の更新が困難となっていくことが危惧されています。

伐採跡地の更新を確実に

に進めるためにも、低コスト化及び労力を軽減した造林作業の確立が求められます。



主伐期をむかえたトドマツ人工林

低密度植栽試験地の取組

当支署では平成28年から、造林事業の低コスト化及び省力化を図るため、新たな施業体系の確立を目的に、苗木の植栽本数を減らすなどした低密度植栽試験地を設定しています(図)。苗間を2倍にした疎植(そしよく)(図③)や筋刈りの残幅を2倍にする(図⑤)等のプロットを設定し、植付け・下刈りの作業効率及び植栽木の成長について現地調査・データの収集を行ってきました。

これまでの調査におい



植栽木の成長を調査

て、疎植であっても苗木の成長については大きな影響は見られないこと、残幅を多く取った方が下刈りの作業効率は向上する傾向にあるというデータが得られました。



図 低密度植栽試験地の概要

また、筋刈りによる地帯を實施した箇所の残し幅には広葉樹が数力所に密集して発生している状況が多く見られることを確認しました。今後も植栽木の調査と併せて発生した広葉樹の調査を行い、効率的な森林づくりに役立つデータの収集を進めていきます。

地域への情報発信

低密度植栽試験地の取組等の地域課題については情報紙「にしもん森林だより」で発信しています。また、これらの取組に加え、アンケート調査により地域の情報やニーズを把握し、支署で取り組んでいる事業などと併せて発信しています。

これらの取組を継続・発展させることにより造林作業の省力化へ取り組んでいきたいと考えています。



「にしもん森林だより」の詳細は、QRコードからご覧ください。